

痛みを伴う改革で「レンタルの蔦屋」を卒業。22/10期は事業構造の転換期へ

レーティング

中立 (前回: 中立)

目標株価

275 円 (前回: 375 円)

株価	=	271 円	(21年12月28日)
年初来高値	=	375 円	(21年3月11日)
年初来安値	=	271 円	(21年12月28日)
予想PER (連結)	=	18.2 倍	(22/10期)
予想PER (連結)	=	8.2 倍	(23/10期)
実績PBR (連結)	=	1.98 倍	(21/10期)
予想ROE (連結)	=	4.7 %	(22/10期)
時価総額		33 億円	
発行済株式数 (除く自己株)		12,084 千株	
予想配当利回り	=	2.21 %	(22/10期)

エクイティ情報部

橋本 貢浩

安達 翔馬

<アナリストの視点>

21/10期はレンタル事業撤退によるペナルティ支払いで特別損失21億円を計上した。近年はデジタル配信の急成長などが逆風となり、販売用CD・DVDやレンタルは直近5年間で売上高が半分以下(裏面参照)となるなか、かつての中心事業からの撤退を決断。一方で、中期経営計画(21/10~23/10期)では今後目指す姿を明確にした。同期間中にレンタル事業売場を「コワーキング(シェアラウンジ)」「特撰雑貨文具」「テナントリーシング」へ置き換える。仕事・勉強やイベントなどに活用できる空間の提供、店舗のオリジナリティを強化した店づくりと「ついで買い」の促進、集客力のあるテナント等を展開する。またメインの書籍では、「儲かる書店」創出を目指し返品率の抑制による粗利改善に取り組む。

<22/10期は事業転換期に。23/10期からの成長を予想>

岡三にいがた証券では、22/10期の売上高を255億円(収益認識に関する会計基準等を適用、前期比なし)、営業利益を前期比10.1%減の3億20百万円と予想する。各種事業構造の改革によるコスト等から今期は営業減益を予想するが、書籍の利益率改善などの取り組みや新規出店の再開などにより、来期から成長フェーズが始まると考えている。

<目標株価算定根拠>

構造改革の方向性が明確になっていることから、特損計上前のPBRレンジ上限(18年以降、1.6倍程度)を上回る評価が可能と考える。特損によるBPSの半減は秋以降の株価下落により概ね織り込まれたと考え、目標株価を21/10期実績PBRで2.0倍程度となる275円とし、レーティングの「中立」を継続する。

<業績推移> 日本基準

単位: 百万円、EPS・一株配当金は円

決算期(年/月)	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	一株配当金	
2019/10	31,185	174	154	135	11.25	0.00	
2020/10	30,127	436	476	371	30.73	0.00	
2021/10	26,407	356	276	-1,939	-160.52	0.00	
2022/10(予)	会社	25,687	356	304	200	16.55	6.00
	弊社前回(※)	30,000	600	570	450	37.24	0.00
	弊社今回	25,500	320	270	180	14.90	6.00
2023/10(予)	弊社前回	-	-	-	-	-	-
	弊社今回	28,000	600	550	400	33.10	6.00

※22/10期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用。22/10期の弊社前回予想は、適用前の数値。

<商品部門別(蔦屋書店事業)・事業別売上高の推移>

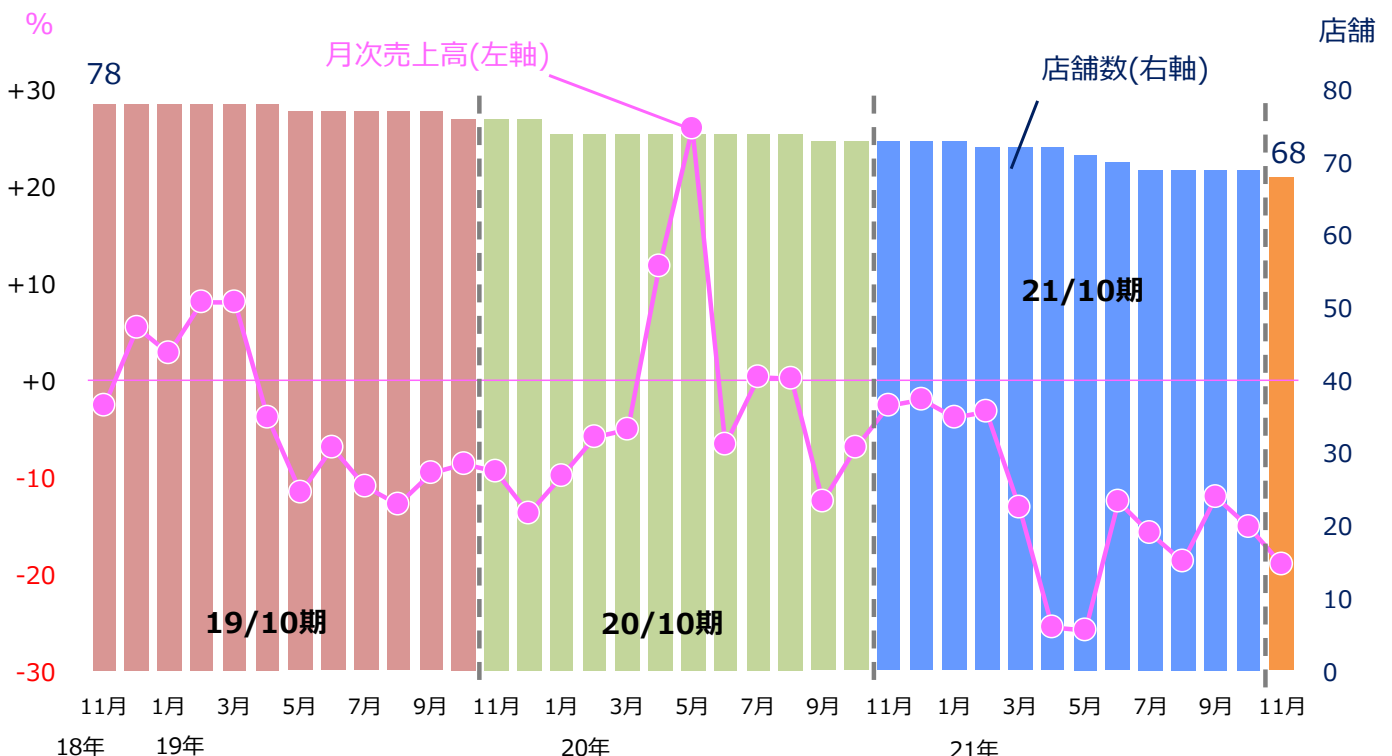
単位：百万円

	16/10期	17/10期	18/10期	19/10期	20/10期	21/10期	前期比 増減率	16/10期比 増減率
書籍	16,560	16,096	16,366	15,932	16,309	15,067	-7.6%	-9.0%
特撰雑貨・文具	3,712	4,101	4,521	4,641	4,762	3,853	-19.1%	+3.8%
レンタル	4,988	4,413	4,349	3,812	2,993	1,926	-35.6%	-61.4%
ゲーム・リサイクル	1,341	1,455	1,467	1,346	1,273	1,104	-13.3%	-17.7%
販売用CD	1,718	1,559	1,579	1,411	934	753	-19.3%	-56.2%
販売用DVD	1,048	1,004	999	819	614	469	-23.6%	-55.2%
賃貸不動産収入	216	232	395	572	573	575	+0.3%	2.7倍
その他	1,348	1,533	1,802	2,000	1,991	1,976	-0.8%	+46.6%
蔦屋書店事業計	30,935	30,397	31,482	30,537	29,453	25,727	-12.7%	-16.8%
スポーツ関連事業	-	-	-	215	182	193	+5.7%	-
訪問看護事業	-	-	-	40	90	106	+17.9%	-
その他	810	859	775	393	401	380	-5.0%	-
連結合計	31,745	31,257	32,257	31,185	30,127	26,407	-12.3%	-16.8%

出所：会社資料、作成：岡三にいがた証券
 19/10期より、「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」「訪問看護事業」を新区分として表示。
 端数処理の関係で、合計が一致しない。

<月次動向と店舗数>

月次売上高(全店、前年同月比増減率)と店舗数の推移



出所：会社資料、作成：岡三にいがた証券

重要な注意事項

アナリスト証明

岡三にいがた証券は、当社のアナリスト・レポートに記載されているすべての見解には、各アナリストの意見のみが反映されており、過去においても将来においても、また、直接的にも間接的にも、本資料における特定の推奨または意見の対価としてアナリストに報酬が支払われることはないことを証明します。

レーティングの基準

強 気: 今後6か月以内の目標株価が現在の株価を10%以上上回ると判断される銘柄

中 立: 今後6か月以内の目標株価と現在の株価の差が±10%未満と判断される銘柄

弱 気: 今後6か月以内の目標株価が現在の株価を10%以上下回ると判断される銘柄

目標株価の定義と未達成リスクについて

目標株価は、アナリストによる当該企業の業績予想を基に、マルチプル法やDCF法等の岡三にいがた証券エクイティ情報部が妥当と考える方法により算出したもので、対象期間は6か月以内です。目標株価達成を阻むリスク要因としては、当該企業の主要市場における競合状況(企業買収・訴訟なども含む)、製品・商品・サービス需要の変動、原材料及び燃料価格の変動のほか、当該企業を取り巻く経済状況、為替相場の変動、国内外の金融・不動産市場の状況、各種規制変更、事故・災害(人災含む)、社会的責任などが考えられます。なお、これらの要因以外にも、現時点で予想できないリスクが将来的に発生し、その結果として目標株価達成が妨げられるおそれがあります。

本資料における個別銘柄に関する注意事項

- ・個別銘柄のレーティングについては、執筆アナリストの変更があった場合でも、岡三にいがた証券としての個別銘柄のレーティングの継続性を保つため、前任者の付与したレーティングを「前回」レーティングとして記載しています。
- ・株価は日付日の終値。年初来高値・安値は権利落ち修正後で、各取引所の立会市場の売買立会時(前場・後場)における約定値段を用いています。
- ・上場市場は東京証券取引所の場合、記載せず、複数市場上場の場合は売買高の多い市場を記載しています。
- ・時価総額など、特に日付を記載していない場合は、個別銘柄の株価日付と同じです。
- ・PBRの根拠となるBPSは会社公表数値を用いていますが、必要に応じて岡三にいがた証券が算出しています。
- ・ROEの根拠となる自己資本は必要に応じて純資産から新株予約権と非支配(株主)持分の金額を控除した金額を用いています。
- ・予想EPSは当期利益(会社計画、前回予想を含む)を記載の発行済株式数で除して計算しています。なお、払い込み前の公募、権利落ち前の株式分割等は考慮しておりません。
- ・時価総額は記載の株価と発行済株式数で計算しています。
- ・発行済株式数は自己株を含んでおりません。株式数は会社公表数値を原則として用いておりませんが、株式分割、公募増資、自己株買入れなど必要に応じて岡三にいがた証券の推定による試算値を用いる場合があります。
- ・日本基準の連結当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です(2015年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用)。
- ・米国会計基準の当期利益は、当社株主に帰属する当期純利益です。
- ・国際会計基準(IFRS)の当期利益は、親会社の所有者に帰属する当期利益です。

免責事項

- ・本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

・本資料は、岡三にいがた証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、その責を負うものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三にいがた証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。なお、本資料は、日本証券業協会「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則」のアナリスト・レポートとして審査されたものです。

有価証券や金銭のお預りについて

- ・有価証券や金銭を当社の口座でお預りする場合には、当社では料金を頂戴いたしません。なお、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じ、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。
- ・お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

株 式

- ・株式の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

信用取引

- ・信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ100万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。当該金融商品の取引契約をされる場合、その金融商品の「契約締結前交付書面」(もしくは目論見書)または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

○2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

○岡三にいがた証券およびその関係会社、役職員が、本資料に記載されている証券もしくは金融商品について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。

○自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。

○本資料は岡三にいがた証券が発行するものです。本資料の著作権は岡三にいがた証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本資料を複製、複製、配布することを禁じます。

岡三にいがた証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第169号

加入協会:日本証券業協会

(2019年10月改訂)